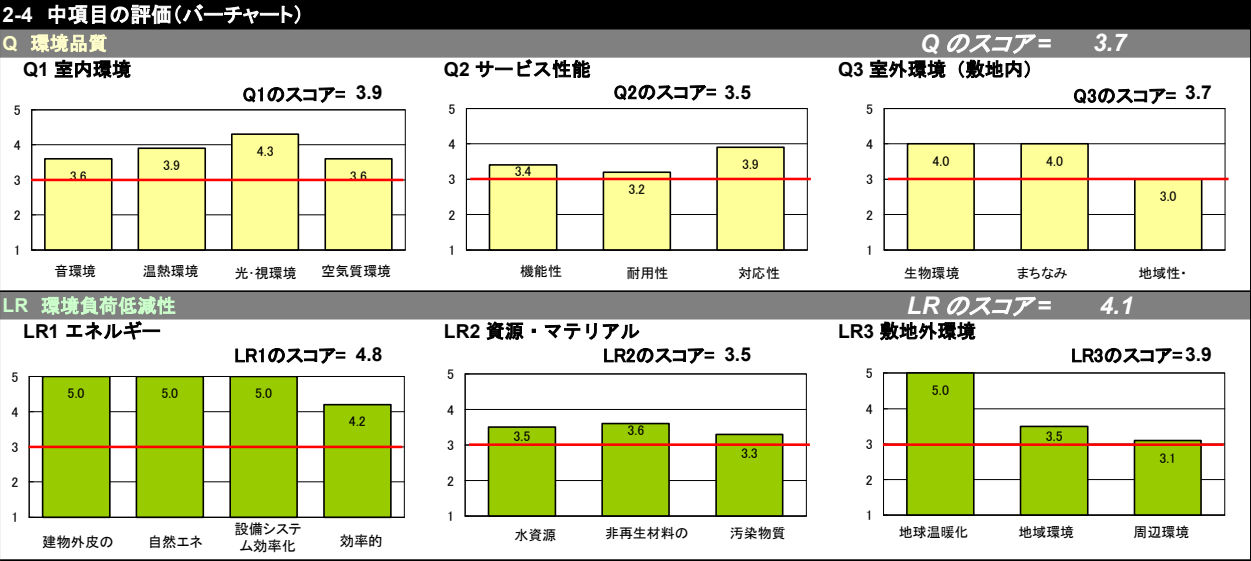
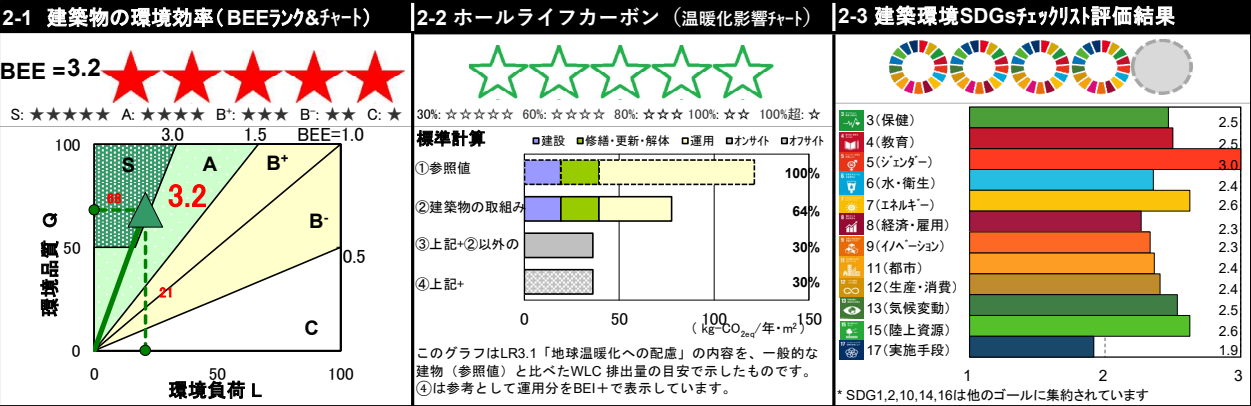


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	YKK AP30ビル	階数	地上3F
建設地	富山県黒部市吉田200番地	構造	S造
用途地域	工業専用	平均居住人員	203 人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年8月 竣工	評価の実施日	2026年6月23日
敷地面積	477,974 m ²	作成者	株式会社日本設計
建築面積	3,851 m ²	確認日	2026年6月23日
延床面積	6,932 m ²	確認者	宮崎淳



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
・地域と共生する「社の中のワークプレイス」を構想し、地域の伝統的な屋敷林「カイニヨ」の知恵や立山連峰から浸透し自噴する井戸水を風土に倣うように建築・外構に採用し、緑・光・風・水といった自然を感じられるオフィス環境を実現した。	・ワークプレイスのフリーアドレステ化と環境のゆらぎを創り出す建築計画により、ワーカーに環境選択性を提供している。 ・自然換気有効サインによって、窓開けを積極的に促すことに取り組んでいる。窓開けと空調発停を連動させ、快適性と省エネ性を両立する計画としている。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能
・4つに分節された2階ワークプレイスは360度全周開口とハイサイドライトによって、自然の光と風をワークプレイスの奥深くまで導く。 ・均質な室内環境ではなく、光・風・熱の自然な「ゆらぎ」を感じ、自ら働く場所を選択することで、健康と知的生産性の向上を両立させるを目指している。 ・分節したフロア及びビントリー・ペリメータごとのゾーニングとし、更にパーソナル空調を導入している。	・2階はオープンワークプレイスとし、リフレッシュスペースやラウンジを設けることで開放性が高く、健康性に配慮した計画としている。設備のメンテナンス性・維持管理及び更新性を考慮した建築・設備計画としている。
Q3 室外環境 (敷地内)	
・建物は周辺住宅のスケールになじむよう、ボリュームを分節させている。建物周囲は、地域の屋敷林に倣い、快適な風を取り込みながら強風を防ぐ杜作りを行っており、風向に合わせて、常緑と落葉の比率・樹種構成等を変化させている。 ・杜の樹種は地域の在来種とし、豊富な湧水を用いた水盤とともに、生物の生息域の形成に配慮している。 ・建物には奥の深い庇を設けて日射遮蔽を行いつつ、庇の下の中間領域を作り、社員の憩いの場を形成している。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル
自然換気や自然採光を活用するパッシブな建築計画に加え、豊富な井水を直接利用する冷房と水熱源空調により年間を通じて高効率な空調システムを構築している。エネルギー消費削減に加え、当ビル用に設置された太陽光発電による創エネにより、『ZEB』を実現している。	・リサイクル資材を積極的に採用している。 ・この地域は水資源に恵まれているため、地下水による井水利用空調を採用し、熱利用後の井水はトイレ洗浄水(節水器具)、水盤、消雪散水及び外構散水として再利用している。
LR3 敷地外環境	
・井水利用空調による高効率システムの構築と太陽光発電設備の設置により、LCCO2を低減し、地球環境の負荷低減に貢献している。 ・燃焼機器を使用せず、大気汚染防止に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。
■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2024年版
YKK AP30ビル

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

スコアシート		竣工段階				
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質				評価点	重み係数	全体
Q1 室内環境					0.40	3.7
1 音環境				3.6	0.15	3.9
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	3.0
1.2 遮音		—		4.2	0.40	—
1 開口部遮音性能		T2以上採用		5.0	0.60	3.0
2 界壁遮音性能		—		3.0	0.40	3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		3.0	—	3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		3.0	—	3.0
1.3 吸音		天井、床の二面に吸音材を使用		4.0	0.20	3.0
2 温熱環境				3.9	0.35	3.9
2.1 室温制御		—		4.2	0.50	—
1 室温		—		3.0	0.38	3.0
2 外皮性能		Low-eガラス採用		4.8	0.25	3.0
3 ゾーン別制御性		デスクごとに個人が操作できるよう、MD付タスク吹出口を設けている		5.0	0.38	—
2.2 湿度制御		—		3.0	0.20	3.0
2.3 空調方式		床吹き空調を採用		4.0	0.30	3.0
3 光・視環境				4.3	0.25	4.3
3.1 屋光利用		—		3.4	0.30	—
1 屋光率		—		3.0	0.60	3.0
2 方位別開口		—		—	—	3.0
3 屋光利用設備		トップライト、ハイドライドサイト採用		4.0	0.40	3.0
3.2 グレア対策		—		5.0	0.30	—
1 屋光制御		庇及び電動スクリーン等によりグレアを制御		5.0	1.00	3.0
3.3 照度		500lx以上		4.0	0.15	3.0
3.4 照明制御		自動照明制御		5.0	0.25	3.0
4 空気質環境				3.6	0.25	3.6
4.1 発生源対策		—		4.0	0.50	—
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の内装材を使用		4.0	1.00	3.0
4.2 換気		—		3.3	0.30	—
1 換気量		30m³/h人以上		4.0	0.33	3.0
2 自然換気性能		—		3.0	0.33	3.0
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.33	3.0
4.3 運用管理		—		3.0	0.20	—
1 CO ₂ の監視		—		3.0	0.50	—
2 喫煙の制御		—		3.0	0.50	—
Q2 サービス性能				—	0.30	3.5
1 機能性				3.4	0.40	3.4
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	—
1 広さ・収納性		執務スペース9㎡以上		4.0	0.33	3.0
2 高度情報通信設備対応		—		2.0	0.33	3.0
3 バリアフリー計画		—		3.0	0.33	—
1.2 心理性・快適性		—		3.3	0.30	—
1 広さ感・景観		天井高は2.7m以上		4.0	0.33	3.0
2 リフレッシュスペース		1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置		5.0	0.33	—
3 内装計画		—		1.0	0.33	3.0
1.3 維持管理		—		4.0	0.30	—
1 維持管理に配慮した設計		1、2、4、5、7、8、10採用		4.0	0.50	—
2 維持管理用機能の確保		1～3、6～8、10、12採用		4.0	0.50	—
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	—
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	—
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	—
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.2	0.30	—
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	—
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	—
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	—
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		厨房ダクトはステンレスを採用		5.0	0.10	—
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上2種類採用		4.0	0.20	—
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	—
2.4 信頼性		—		3.8	0.20	—
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	—
2 給排水・衛生設備		1、5、7採用		4.0	0.20	—
3 電気設備		—		3.0	0.20	—
4 機械・配管支持方法		Aクラス以上		4.0	0.20	—
5 通信・情報設備		1～3、5取り組んでいる		5.0	0.20	—

3 対応性・更新性			3.9	0.30	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	平均階高4.9m以上	4.6	0.30	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.127	5.0	0.60	3.0	-	
			4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり	スラブ 4500N/㎡以上	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性		3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性	ケーブルラックあり	5.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性	ケーブルラックあり	5.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出		周辺に合わせた緑化計画としている	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		良好な景観を形成している	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		—	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	4.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.59	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)		自然換気を採用	5.0	0.10	-	-	5.0
3 設備システムの高効率化		BEI=-0.04	5.0	0.50	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価		5.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4 効率的運用に向けた取組み			4.2	0.20	-	-	4.2
	集合住宅以外の評価		4.2	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング	BEMSにより消費傾向の把握、分析することが可能	5.0	0.40	-	-	
	4.2 運用管理体制	定期的な検証、不具合の是正を行っている	4.0	0.40	-	-	
	4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	—	3.0	0.10	-	-	
	4.4 コミッショニングの推進	—	3.0	0.10	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1 モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2 運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.5	0.20	-	-	3.5
1.1 節水		洋風便器・小便器・自動水栓	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.3	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無	雑排水等を利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減		—	3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		—	3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		—	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		リサイクル材3品目以上採用	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		—	3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		フリーアクセスフロア採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		接着剤、塗料	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤	—	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	—	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮		換算スコア5.0	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		—	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制	3~5採用	4.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1 騒音	—	3.0	0.33	-	-	
	2 振動	—	3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭	—	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制	—	3.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅

LR2 資源・マテリアル

2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K)窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -

昼光率0.0%

自然換気有効開口面積率0.0%

執務スペース0.0㎡ / 人病床0.0㎡ / 床シングル0.0㎡ ツイン0.0㎡

コンセント容量0.0 VA/㎡

天井高0 m

リフレッシュスペース0.0%レストスペース0.0%

想定耐用年数0 年

想定必要間隔0 年

想定必要間隔0 年

想定必要間隔0 年

階高0 m

壁長さ比率0.0%

床荷重- N/m2

外構緑化指数26%建物緑化指数0%

空地率71%水平投影面積率0%地表面对策面積率1%舗装面積率0%

BPI/BPI_{lm}0.59断熱等性能等級0 相当

影響範囲の割合0.0%採光を満たす教室数0.0%採光を満たす住戸数0.0%

通風を満たす教室数0.0%通風を満たす住戸数0.0%

太陽光0.0kW太陽熱等0.0kW蓄電池0.0kWh

BEI/BEI_{lm}再エネ有0.04無0.48オフサイト再エネ有0.04〇〇GJ/年

一次エネ削減率再エネ有#####無#####-

雨水利用率0.0%

特定調達品目-エコマーク商品-自治体指定の特定品目等-

使用比率0.0%

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

オゾン層破壊係数(ODP)地球温暖化係数(GWP)

見付面積比79%隣棟間隔指標R_w 2.09

地表面对策面積率2.0%屋根面对策面積率0.0%外壁面对策面積率0.0%

見付面積S_b920㎡卓越風向と直交する最大敷地幅W_s165.465 m基準高さH_b6.9838298 m

緑地154㎡水面2.273㎡保水性対策面㎡高反射対策面㎡再帰性反射対策面㎡

</